

# 動物系公開講座

## 「食べられる生命 —肉と卵と牛乳の科学と実際—」

○酒向 隆司, 有代直人

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター

今年度で5回目となるが、一般の方を対象に動物系公開講座「食べられる生命 —肉と卵と牛乳の科学と実際—」を開講した。家畜の肉や鶏卵、牛乳などの畜産製品は、我々にとって身近な食材であるが、実際にそれらが生産される現場に触れる機会はあまりない。本公開講座では実際に家畜と触れ合う機会や畜産物を用いた加工の実習、さらに岐阜大学の教員による講義を交えて、家畜および畜産製品について一般の方に学んでいただいた。その内容について報告する。

**Key Words** : 家畜, 畜産製品, 食育

今年度で5回目となるが、一般の方を対象に、全5回にわたって動物系公開講座「食べられる生命—肉と卵と牛乳の科学と実際—」を開講した。牛、豚、鶏などの家畜の肉や、鶏卵、牛乳といった畜産製品は、日常的に食する機会の多い身近な食材であるが、我々が目にすることは、すでに流通製品として加工済みのものが多く、畜産物を生み出している家畜の姿をそこから想像するのは難しい。当センターでは実際に家畜の乳牛、採卵鶏を飼育しており牛乳、鶏卵の生産を行っている。また学生を対象に畜産物の加工実習も行っているため、加工用の施設も整備されている。そのため、普段は目にすることの少ない家畜の飼育現場での姿を知ってもらい、講義により知識を深め、その上で実際に畜産製品の加工を体験してもらうことにより、食に対する意識を向上してもらう目的で公開講座を企画した。

期間は平成29年の9月から11月とし、新聞およびセンターのHPにて募集した結果、6組の参加希望者があった。内容に関しては家畜と畜産製品について総合的に学べるように検討した。以下内容について紹介する。

**第1回 9/30(土) 14:00~17:00**

「ガイドンス、牛と触れ合う（ブラッシング等）、搾乳体験」

大場伸也教授による講義の後、牛舎内で牛を見学し、ブラッシングをしてもらうなど実際に触れてもらった。乳牛は体重が600kg程度あるため想像より大きかったようで、皆さん驚いていらした。また搾乳器（ミルクカー）を用いての搾乳作業も体験してもらった。牛に触れるのが初体験の方もいたため、おっかなびっくりの方もいたが全員無事に搾乳作業を行うことができた。

**第2回 10/14(土) 13:00~15:30**

「ソフトクリーム、ヨーグルト作成、試食」

矢部富雄准教授による講義の後、フィールドセンターで搾乳した牛乳を用いて、ソフトクリームとヨーグルトの作成、試食を行った。今まではあまり知ることのなかった乳製品の実際の作り方を知らず、満足するまで試食していただき、お腹もいっぱいになり受講者の方に満足いただけた。

**第3回 10/21(土) 13:00~15:30**

**「卵の不思議, マヨネーズ, 黄身返し卵作成, 試食」**

土井守教授による講義の後、フィールドセンターで生産した鶏卵を用いて、自家製マヨネーズの作成を行った。卵黄1個に対して油を180ml程度使用するため、参加者はマヨネーズのカロリーの多さに驚いていた。その後卵を高速に回転させる専用の器具を用いて、卵黄と卵白を反転させる黄身返し卵の作成を行った。全てではなかったが、数個反転に成功した卵を作ることができ、皆さんに驚いてもらえる充実した内容となった。

**第4回 11/7(土) 13:00~15:30**

**「バター, ミルクジャム作成, 試食」**

八代田真人准教授による講義の後、手作りバター、ミルクジャムの作成を行った。バターは調整した牛乳をペットボトルに入れて振ってもらうことで作成した。またミルクジャムは牛乳を煮詰めてジャム状にする食品であるが、作成や試食が初体験の受講者が多く、皆楽しんで実習を行うことができた。

**第5回 11/18(土) 13:00~16:00**

**「鶏屠殺・解体, 鶏肉ソーセージ作成, 燻製作成, 試食」**

大場恵典教授による講義の後、希望者のみを対象としたが、鶏の屠殺・解体を行い、その肉を用いて鶏肉ソーセージの作成を行い、その後市販の鶏肉を用いた燻製の作業体験を行った。決して楽しい作業ではなかったと思われるが、食肉にする工程を実際に参加してもらい、さらにその肉を実際に食べてもらうことで、参加者に「命」の大切さや「食」について深く考えてもらえる実習になったのではないかと考える。

今年度で5回目となった本公開講座であるが、主催する我々の方も経験を積み、より受講者の方々に満足感を与えられる公開講座にできたと自負している。受講者に実施したアンケートによると概ね満足

したとの回答が得られた。ただ今回は予定していたよりも受講者数が少なくなってしまったため反省材料が残ってしまった。募集の方法や募集時期を検討していき、来年度の開講へ向けて活かしていきたい。



写1：講義風景



写2:ミルクジャムづくり



写3：黄身返し卵づくり

# H29 年度位山演習林公開講 「雪山を歩こう」実施報告

都竹 彰則

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学研究センター

フィールドセンター位山演習林では平成19年度から公開講座「雪山を歩こう」を年1回開講し、今年度で11年目になる。位山演習林は、冬季1m以上の積雪があり容易に入山ができなくなる。本公開講座では、スノーシュー（西洋かんじき）をはいて、安全に楽しく森林散策をしていただいている。今回は年齢8歳から60歳以上の方まで24名の参加があり、幅広い年齢層の方に参加していただいた。また、毎年参加される方もみえるためコース設定を変更して位山演習林の森林を見学していただいている。今回はコース設定を初級、中級、上級の3コースに分かれて森林散策をしていただいた。初級コースは、距離2kmくらいで林道を中心に無理なく歩けるコースを設定した。中級コースは距離5kmくらいのコースを設定し、上級コースは距離7kmくらいの健脚向きのコースを設定した。どのコースもスギ・ヒノキ人工林、カクラ谷沿いの溪畔林など針広混合天然林を散策した。天然林の散策では、夏季は笹で覆われ立入る事が困難な森林内を歩いてもらい、溪畔林内の針葉樹・広葉樹の大径木近くまで散策することができ間近で触れることができた。また、冬の樹木観察、カモシカなどの野生動物の痕跡探しなど冬山ならではの森林散策を楽しんでいただいた。



# H29 年度公開講座 「家庭菜園の基礎 理論と実際」実施報告

古川 真一

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学研究センター

公開講座『家庭菜園の基礎 理論と実際』は一般市民を対象とした公開講座であり、野菜づくりを基礎から学ぶ講座です。岐阜大学教員による講義と畑での実習で構成されています。平成 29 年度は 31 組の参加がありました。参加者の皆様からは概ね好評を得ており、次年度への継続者も半数以上ありました。今後も参加者の皆様に満足いただける公開講座運営に尽力いたします。

日付	担当教員	講義内容
4/30	伊藤健吾 准教授	野菜栽培の基礎
5/6	近江靖則 准教授	土と肥料
5/20	小山博之 教授	土の科学
6/10	大場伸也 教授	農薬の使用方法
7/1	清水将文 准教授	病害虫
7/22	落合正樹 助教授	野菜の歴史
8/19	矢野宗治 技術専門職員	野菜の種まき
9/2	三輪精博 名誉教授	農業機械
9/9	松原陽一 准教授	野菜栽培の話題
10/7	古川真一 技術職員	堆肥
11/11	嶋津光鑑 准教授	農業用資材
12/9	田中逸夫 教授	植物の機能
1/20	大場伸也 教授	反省会

# 平成 29 年度 全国大学附属農場協議会秋季全国協議会参加報告

細江重男 ○矢野倫子

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター

平成 29 年 9 月 21 日(木)～22 日(金)の 2 日間にわたり開催された平成 29 年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会に、細江と矢野が参加した。今回の幹事校は佐賀大学で 52 大学 156 名の参加者で行われた。

1 日目はホテルグランデはがくれ内で全体会議が行われた。また、会議の一部の時間は並行開催として技術職員集会も行われた。技術職員集会には全国の農場から 50 人余りの職員が参加した。今回は技術職員集会会則と運営委員ローテーションについての採決結果の報告があった後、各地域協議会に分かれ、運営委員のローテーションについて協議を行った。方向性の決定に従い運営委員を選考し来年度に向かっていくこととなった。その議事内容は午後からの全体会議で報告された。

昼食後、教育研究シンポジウムが行われ、「COC 事業のハブとしてのセンターの取り組み」というテーマで 4 題の講演があり、意見交換が行われた。その後平成 29 年度全国大学農場技術賞・教育賞の表彰式があった。終了後、同ホテル内で情報交換会が行われた。

2 日目は現地検討会があった。検討会場は佐賀市清掃工場・株式会社アルビータ・吉野ヶ里歴史公園の 3 ケ所でバス移動し視察を行った。

今回の職員集会までで、会則・運営委員ローテーションが決定したため、次回の職員集会からは運営委員を中心に本格始動し、実りあるものになると期待している。



全体会議



アスタキサンチンを生産する藻類の培養  
(株式会社アルビータ)

# 平成29年度「食と緑の命の学校」実施報告

矢野宗治

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター

フィールドセンターでは、「食と緑と命の学校」を JA ぎふとの共催として開講し、JA ぎふ女性部23名が6回にわたり、講義と実習を行い、食農教育活動の一環として、楽しみながら食と農と命の大切さを学ぶことができる公開講座を開催しました。学部教員や他大学の教員等の講義を受講し、その後、フィールドセンターの技術職員等による実習指導を行い、有意義な講座となりました。

## 2. 講義と実習風景の様子

### 1. 講座の概要

	開催日	テーマ
1	5月23日 (火)	プランターで作る夏野菜 岐阜大学応用生物科学部 技術専門職員 矢野 宗治 先生
2	7月11日 (火)	もぎたてトマトを食卓に 岐阜大学応用生物科学部 技術専門職員 細江 重男 先生
3	10月10日 (火)	ジャム加工 岐阜大学応用生物科学部 技術専門職員 酒向 隆司 先生
4	11月7日 (火)	柿の科学と干し柿の作り方 岐阜大学応用生物科学部 技術専門職員 矢野 宗治 先生
5	12月12日 (火)	発酵食品とダイコン甘粕漬け 岐阜大学応用生物科学部 技術職員 矢野 倫子 先生
6	1月23日 (火)	乳製品の知恵としくみ 岐阜大学応用生物科学部教授 矢部 富雄 先生

#### ・柿の科学と干し柿の作り方



#### ・乳製品の知恵としくみ



## 3. 閉校式

### 「食と緑と命の学校」の修了証授与式



最後にフィールドセンター長 大場伸哉教授より「食と緑と命の学校」の修了証を一名ずつ授与していただきました。